

社会を批判的に捉えることを目指した

歴史総合の授業開発・実践

— 「個人の声がきこえる史料」の活用を通して —

教育実践高度化専攻 教科指導重点コース 言語・社会科学系（社会）

岡田 陸

本研究のRQは、「現代社会を批判的に捉えることを目指した歴史授業において、「個人の声がきこえる史料」が有効性を発揮するかどうか」である。

近年、歴史教育には史実理解などにとどまらず、社会の在り方を批判的に考察することが求められている。そうした状況への応答として、本研究では、日記・手紙・回顧録といった一次史料である「エゴドキュメント」を、歴史授業で用いるために「個人の声がきこえる史料」と定義し、それを活用した歴史総合の授業を開発・実践した。

生徒のワークシート記述および事後アンケートの分析から、生徒が当時の社会を生きた「個人」と現代社会に生きる「私たち」を比較し、社会構造や自身の生き方を批判的に捉えている様子が確認できた。また、「個人の声がきこえる史料」に対する肯定的な意味付けも確認できた。

以上の結果から、「個人の声がきこえる史料」は、現代社会を批判的に捉えることを目指した歴史授業において有効的に機能することが示唆された。